

## カレル大学の発展における社会主義期の位置づけ

—チェコ人のための大学という視点からの歴史の読み直し—

石倉 瑞恵

### **Analysis of socialism in the course of development of Charles University : Re-reading Czech history from the viewpoint of the university for Czech people**

Mizue ISHIKURA

#### はじめに

カレル大学 (Univerzita Karlova) はチェコ最大の公立大学である。17の学部を抱える総合大学であり、チェコで2番目の規模をもつマサリク大学 (Masarykova Univerzita) が9学部であることと比較すれば、その大きさは抜き出ている。学部や研究所はチェコ各地に広がり、全体像を把握することは困難ですらある。

又、カレル大学は、現在チェコに存在する25の公立大学の中で、最古の大学である。1348年に創立されて以来、650年以上の歴史をもつ。25の公立大学は全て総合大学であるが、そのうちの9校は18世紀から20世紀初頭までに設立された大学、12校は社会主義期に設立された専門大学を起源として市民革命 (1989年) 後に総合大学に昇格した大学、残りの3校は市民革命後に新設された大学であるので、総合大学としての伝統は、他大学とは比較にならないくらい古いこととなる。すなわち、カレル大学はチェコを代表する大学なのである。

名門大学として、毎年多くの受験生がカレル大学を目指す。トップ難関大学であり、何万人もの学生が受験する。その中で晴れて合格を手にするのは、わずか数千人である<sup>1)</sup>。法学部は最難関であり、医学部がそれに続くのは、日本の大学事情と似ている。

さて、チェコにおいてこのような伝統と名声をもつ大学であるならば、ヨーロッパにおける名声もさぞかし高いであろうということになる。そもそも、大学の起源は、中世ヨーロッパにある。大学の誕生は、サレルノ大学、ボローニャ大学、パリ大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学等12世紀に遡る。13世紀以降は、教皇の教書を得て大学を名乗ることができるようになるのだが、プラハ大学 (Universitas solarium studii pragensis : カレル大学の創設当初の名称) は、ドイツ以東において初めて教皇の教書を得て誕生した大学であった<sup>2)</sup>。又、プラハ大学は、ライプチヒ、エアフルト、ケルン、ハイデルベルク等ドイツ大学の発祥原点となっており<sup>3)</sup>、とりわけドイツ以東におけるカレル大学の意義は大きいのである。

しかし、ヨーロッパ大学の始祖の一つであるとは言いながらも、現在のヨーロッパにおける名声は必ずしも高いとは言えない。カレル大学の学位がヨーロッパ諸大学に比するものか否かについては、疑問がもたれるところである。それは、社会主義期にチェコの大学が西側諸国との交流を絶ち、社会主義高等教育が科学・研究の停滞をもたらしたからである<sup>4)</sup>。確かに、市民革命直後のカレル大学のインフラは乏しく、研究設備さえ不十分であった。市民革命後20年以上を経た今でさえ、高等教育の国際動向に追いついていないと言いがたい。チェコ工科大学等の理工系大学が、様々な研究設備を投入し、比較的顕著な発展を遂げているのに比べて、カ

レル大学、特に哲学部には大きな変化が見られない。

今、チェコの大学は欧州高等教育圏構想に向かう国際化改革の直中にあり、カレル大学もヨーロッパ留学生の受け入れを念頭に置いた改革に着手している。しかし、カレル大学に来た多くの留学生が戸惑うのは、難解なチェコ語である。そこで、カレル大学では、東欧スタディーズ等の留学生向け授業を受講させて単位を与えている。留学生は、そのような授業を受講するにつけ、カレル大学はチェコの大学だと感じるのである。

国際化という観点からは検討課題となるべきところなのだが、「カレル大学はチェコの大学だと感じる」ことを別の角度からとりあげたい。カレル大学がチェコの大学となったのはいつであろうかという視点である。はたして、カレル大学650年の歴史は全て「チェコ人のため」にあったのだろうか。チェコ人の大学となったのは、わずかに第二次世界大戦後ではないか。確かに、社会主義は大学人を迫害し、研究活動の停滞を招いたのであるが、「チェコ人のための大学」という視点で眺めると、別の評価を与えることができるのではないだろうか。本研究は、チェコ人のためのカレル大学という視点から、カレル大学の歴史と社会主義を再分析する試みなのである。

本論では、カレル大学の歴史を①中世大学としての栄華期と衰退期、②社会主義期以前のチェコ文化衰退期（ハプスブルク帝国からナチス占領下）、③社会主義大学としてのカレル大学再生期の3つに区分する。ハブラーネク（Havránek, Jan）、シュテンベルコヴァ（Štemberková, Marie）等が叙史的に記したカレル大学史<sup>5)</sup>、カレル大学に関わる統計資料を「チェコ人のためのカレル大学」という視点から読み直し、それぞれの時代、特に社会主義期のカレル大学発展における意味を明らかにしようとする。

## 1 中世大学としての栄華期と衰退期

現在のチェコ、14世紀ボヘミア王国が大学の誕生という栄光に浴することができたのは、ボヘミア王から神聖ローマ皇帝カレル4世（Karel IV）が誕生したからである。しかし、それだけでは大学の成立要因を満たしているとは言えない。プラハの聖ビート大聖堂には、優れた修道院学校が成立し、すでにストゥディウム・ゲネラーレ（studium generale：中世大学の古い呼称）の基盤が存在していた。さらに、後の神聖ローマ皇帝ルクセンブルク家のカレルが、青年期をパリで過ごし<sup>6)</sup>、後の教皇クレメント4世と親しくなったという偶然が、大学創設への道を切り開いたのである。

カレルは、1346年に皇帝になるや、周到にクレメント4世の承諾を得て、1347年にはプラハ大学の成立許可を記した教書を手にした。そこには、「プラハの町に、許可した専門に関して、ストゥディウム・ゲネラーレが未来永劫栄えるべきである」と記されている<sup>7)</sup>。クレメント4世が許可した専門分野とは、神学部、法学部、医学部、哲学部の4学部である。中世大学の多くは、例えばパリ大学が神学、サレルノ大学が医学と、特定分野において教皇の認可を得るので、カレル大学が4学部について認可を得られたことは、異例であったと言える。

しかし、大学といっても、初めは小さな仮住まいから始まる。カレル4世時代のプラハ大学はユダヤ人診療所の小さな庵であった。他の中世大学同様に、カレル大学にはヨーロッパ各地からの学生が集まった。1383年、ヴァーツラフ4世（Václav IV）の治世には、大学はカロリヌム（Carolinum）という建物に移転する。カロリヌム、すなわちプラハ大学創設者の名前を抱いたカレル・カレッジには、講義や儀式を行う場、問題のある学生を拘留する大学牢等があった。プラハ大学は、カロリヌム以外にもカレッジを設けるが、カロリヌムは、その後のどの時

代においてもプラハ大学の中核となる（図1参照）<sup>8)</sup>。

学生は、長旅の末にたどり着いた異郷の地において、自らの権利を獲得するために国民団を結成した。大学とはその発生から国際的な組織であったと言える。プラハ大学は、チェコ組、ポーランド組、サクソン組、バイエルン組の4国民団からなっていた<sup>9)</sup>。各国民団には大学評議会等の意思決定機会において同等の代表権が与えられ、全学総会では、各国民団が一票を投じることができた。



図1 カロリヌム（1826年当時の模型）

出典）Petráň, Josef, *Karolinum*, Univerzita Karlova, Praha, (2010), s.55.

しかし、各国民団平等の原則が破られ、チェコ組が優位になることもあったようである。カレッジ内の国民団の振り分けに関して、チェコ組に都合のよい決定がなされたり（1380年代）、チェコ組に3票分の決定権が与えられたりした（1409年）ことが、他の国民団との争いの種になった<sup>10)</sup>。反発したドイツ組は、プラハ大学から離脱し、行き着いた地において新たな大学を創設した。1386年の離脱組が創設したのがハイデルベルク大学であり、1409年の離脱組が創設したのがライプチヒ大学である。先に述べたように、このようにして、プラハ大学はいくつかのドイツ大学の起源となったのである。

チェコ国民団を多く抱えた大学として繁栄を極めたプラハ大学であるものの、その栄光はわずか70年しか続かなかった。1415年、プラハ大学学長を務めたフス（Hus, Jan）<sup>11)</sup>がコンスタンツ公会議の後処刑されると、教会との決裂を避けるために神学部の教員は大学を捨てて国外に逃亡した。神学部は大学から消滅し、1418年には、法学部、医学部も廃止された<sup>12)</sup>。残されたのは哲学部のみである。哲学部は神学、法学、医学の専門を修める前にリベラル・アーツを修得することを目的とした学部であったため、哲学部のみでは大学と呼ぶことはできない。プラハ大学は、リベラル・アーツを提供する地方の教育組織になり下がった。

## 2 社会主義期以前のチェコ文化衰退期

### （1）ハプスブルク帝国の大学としての再生

1526年、オーストリア・ハプスブルク帝国がボヘミア王国を一領邦国家として吸収した。中世大学都市プラハはハプスブルク帝国の都として栄光を取り戻すのである。しかし、その光は影と表裏の関係にあった。チェコの領土にはドイツ系住民が増加し、チェコのドイツ化が進行する。支配者層はドイツ人であり、政治・文化の公用語はドイツ語となる。チェコ人は、公の場、教育の場ですら、ドイツ語を話すようになる。チェコ語が生き延びる場所は、田舎で農耕生活を送っているチェコ人の会話の中であった<sup>13)</sup>。

1556年にイエズス会がクレメンティヌム修道院<sup>14)</sup>にギムナジウムとリベラル・アーツ、及び神学教育の機能を備えたアカデミーを創設して以来、プラハには学士を出す高等教育機関が二つ存在していた。カロリヌム・アカデミー（旧プラハ大学）とクレメンティヌム・アカデミーの二つは、1654年、ハプスブルク皇帝フェルディナンド3世によって一つの大学に統合される。彼は、自らの名を交えてカルロ・フィルディナンド大学（Universitas Carolo-Ferdinandaea）と大学名を改め、設立当初の4学部からなる大学を再生させた。

フェルディナンド3世は、すでに哲学部と神学部の基礎があるクレメンティヌム修道院をカロロ・フェルディナンド大学の哲学部、神学部とし、ヴァーツラフ4世以来のカロリヌムに法学部と医学部をおくことを定めた。カロロ・フェルディナンド大学はハプスブルク帝国の大学であることが勅書により宣言された。

大学の教授言語には元来ラテン語が使用されていた。17世紀、自然科学の発見、発明が盛んになると、実際的な教育、自国語教育が重んじられるようになる。大学教授言語も、次第に各国の言語へと変わっていく。ハプスブルク国内では、1783年にウィーン大学がドイツ語を教授言語に採用した。ハプスブルク帝国の大学であるカロロ・フェルディナンド大学では、翌1784年よりドイツ語が使用されるようになった<sup>15)</sup>。

しかし、1848年チェコ革命<sup>16)</sup>以降は、チェコ民族復興運動が高まり、公の場において徐々にチェコ語の使用が許可されるようになる。チェコ語新聞、商業用語としてのチェコ語が認められ、1866年には、初等学校からギムナジウムまでの「チェコ語学校」を認める教育法が制定された。学問の最高府である大学でのチェコ語使用についてドイツ人政治家の賛同を得ることは困難であったが、チェコ語ギムナジウムの増加に伴い、カロロ・フェルディナンド大学での二言語制の採用を主張する政治家も現れ始める。

1882年、カロロ・フェルディナンド大学は、ドイツ語を教授言語とするドイツ大学と、チェコ語を教授言語とするチェコ大学に分離するという折衷案をとった<sup>17)</sup>。それぞれは、同じ大学名を名乗り、同じ学長を据え、カロリヌムやクレメンティヌム等は共有するのであるが、講義や儀式を共有することはなかった。カロリヌムは交差する通りに面する二つの入り口をドイツ大学の入り口とチェコ大学の入り口とし、それぞれの学生が顔を合わせることがないように改造を施された。大講義室のように一つしかない施設の場合は、それぞれの大学が隔日で使用するようにと定められた。

教員と学生はドイツ大学とチェコ大学のどちらかを自ら選択した。チェコ人教員を含む多くの教員は、ドイツ大学を選択した。それは、優れた研究設備等はドイツ大学の方に所属していたからである<sup>18)</sup>。同じ理由で、チェコ人学生がドイツ大学を選択する場合もあった。しかし、ドイツ大学の方が研究の質が高かったとは言え、ハプスブルク国内でのカレル・フェルディナンド大学の位置づけは決して高くはなかった。カロロ・フェルディナンド大学は、高く見積もってもウィーン大学の下であり、世界的に著名な学者にとっては、短期間「ちょっと立ち寄る」程度の大学に過ぎない。例えば、アインシュタイン (Einstein, Albert) はドイツ大学の物理学の教授に任命されたが、そこで過ごしたのはわずか3セメスターであった。

もちろん、著名な学者がチェコ大学の方に「ちょっと立ち寄る」ことはない。カロロ・フェルディナンド大学の主流はドイツ大学であり、年々学生数が増加するとは言え<sup>19)</sup>、チェコ大学は弱小付属組織としてしか見なされないものであった。

## (2) 独立国家チェコスロバキアとチェコ大学・ドイツ大学

1917年にハプスブルク帝国が崩壊すると、独立国家チェコスロバキアが成立する。初の独立国家は、第一共和国と言われる。初代大統領は、チェコ大学哲学部の教授であったマサリク (Masaryk, Tomáš Garrigue) である。カロロ・フェルディナンド大学は、ハプスブルク帝国を象徴する名称を廃し、チェコスロバキアの大学として生まれ変わる。しかし、ドイツ大学とチェコ大学は併存し、大学名称も「チェコ大学」、「ドイツ大学」のままとなった。ハプスブルク帝国末期より、ドイツ大学の学生数は減少し始めていたので、ドイツ大学とチェコ大学の立

場は名実ともに逆転した。しかし、ドイツ大学のドイツ人学生は、大学章を継承する権利がドイツ大学にある等、ドイツ大学こそがブラハ大学の嫡子であると主張した。そのようなことが引き金となって、ドイツ大学の学生とチェコ大学の学生が激しく争うこともあった<sup>20)</sup>。

自身哲学者であるマサリク大統領は、チェコスロバキアの学問拠点を拡大することに尽力した<sup>21)</sup>。カレル大学では、1920年に哲学部から自然科学部が独立し、5番目の学部となった。新設自然科学部と医学部は、19世紀初頭から医学、自然科学系のインスティテュートが設立された地域に移転し、一帯を自然科学系の研究所で占める大学ビルレッジを形成した。1928年には、神学部がクレメンティヌムからブラハ郊外へ移転した。哲学部と法学部は、それぞれブルタヴァ川を望む新天地に新しい学舎を建設した。この時期に確立した神学部、法学部、医学部、哲学部、自然科学部の5学部は、現在もそのままの姿をとどめている。ゆえに、第一共和国は、現カレル大学の組織的発展の基礎を築いた時代であると言える。

しかし、マサリクの改革視点は、あくまでも自身の出自である中産階級を対象としたもの、すなわちハプスブルク帝国下において比較的恩恵を受けていた都市部を拠点とする一部の豊かなチェコ人を念頭に置いた改革であった。ハプスブルク帝国の都としてブラハがドイツ文化一色に染められていた時代、チェコ語とチェコ文化の発展を支えていたのは農村に住む農民である。初の独立国家において、チェコ文化の担い手である農村部の若者は、大学の恩恵を受けることができなかった。したがって、真にチェコ人のための大学を築いたとは言いがたい。何と云っても、ようやく勝ち得た最初の独立国家は、1938年10月5日、わずか20年で終わりを告げる。カレル大学の安定した発展を見ることなく、第一共和国は幕を閉じる。

### (3) ドイツ保護領下における大学の閉鎖

第一共和国第二代大統領ベネシュ (Beneš, Edvard) は、第二次世界大戦に突入しようとするヨーロッパの情勢を案じて<sup>22)</sup>、ドイツに服することを決意し、ミュンヘン協定を承認した。チェコスロバキアがドイツ国境の武装を解除すると、1939年10月1日には、ドイツ軍がチェコスロバキアに侵攻した。瞬く間に、チェコスロバキア全土はナチス・ドイツの保護領下におかれた。チェコは再びドイツ人を支配者と仰ぎ、公の言語としてドイツ語を使用する運命を受け入れなければならなかった。

チェコ大学の学生団体は、ドイツ支配に反対するデモを繰り広げた。ナチスは、学生団体の指導者を逮捕して処刑し、多くの学生を強制収容所に送った。さらに、全てのチェコ大学を3年間閉鎖するとの決定を下した。実際には、3年間ではなく、戦争の終結までであったが<sup>23)</sup>。

チェコ大学が空洞化すると、チェコ大学の資産は全てドイツとドイツ大学の所有となった。哲学部にはドイツ大学の管理局が、法学部には武装親衛隊司令部が置かれた<sup>24)</sup>。カロリヌムは破壊され、クレメンティヌムの蔵書も焼き尽くされた。ようやくチェコ人の大学としてスタートしたカレル大学は、その基盤が根付く以前に再びゼロ地点に立たされることとなったのである。

## 3 社会主義大学としてのカレル大学再生期

### (1) イデオロギー化する大学

第二次世界大戦の終結は、独立国家チェコスロバキアとしての再出発であり、ソ連の衛星国としての新たな苦渋の始まりでもあった。しかし、チェコスロバキアが社会主義路線をとったのは、他の東欧社会主義国のように決して強いられなかった結果ではなかった。

ナチス・ドイツがブラハで破壊の限りを尽くしたのに対し、ドイツを撃退するためにブラハ

に進軍したソ連軍は、プラハの歴史遺産を破壊しないよう紳士の姿勢を示した。ソ連軍はチェコスロバキアの救世主であり、まさに同志であった。又、ナチス支配下において、社会主義に傾倒するチェコ人が増えていたこともあり、戦後はごく自然とソ連と社会主義思想への親和性が高まったのである。戦後間もないころは少数派であったチェコスロバキア共産党は確実に権力を増幅していた。

旧チェコ大学は「カレル大学」となり、旧ドイツ大学は廃止された。ナチス支配下において大きな打撃を受けたカロリヌム等、大学施設の大掛かりな復旧が行われる一方で、1945年夏から新入生を迎え入れた。カレル大学がチェコ人のためにのみ門戸を開いたのは、カレル大学史上初のことである。大学閉鎖の6年間を埋め合わせるために、多くの学生がカレル大学の門戸を叩いた。志願者は25歳が最も多く、より年配の学生も含まれていた<sup>25)</sup>。学生は、社会主義思想に共感しながらも、第一共和国の民主主義を象徴するベネシュ大統領を支持していた。ベネシュが大統領を辞任する1948年までの3年間は、カレル大学には自由がみなぎっていた。

しかし、1948年の総選挙で共産党が勝利を取め、ゴットワルド (Gottwald, Klement) が大統領に就任すると事態が変わる。彼が逝去する1953年まで、反社会主義分子を一掃するパージの嵐が吹き荒れ、再び恐怖が大学を支配する。

共産党政権の発足に伴い、カレル大学では任命されて間もない学長エングリシュ (Engliš, Karel) が任を解かれた。エングリシュは、第一共和国時代には財務大臣や国立銀行の管理職を務め、マサリク大学法学部の教員も兼務していた。すなわち、著名な経済学者であるエングリシュ学長が国家の経済政策に介入し、共産党政権にとって不都合が生じることを防ぐための策であった。学長辞任後、カレル大学法学部の教授として教鞭をとるも、1951年には大学を後にする。彼は歴代学長の一人であったにも関わらず、1991年になるまで、カロリヌムに彼の肖像画がかけられることはなかった<sup>26)</sup>。エングリシュのみならず、社会主義思想の敵とみなされる大学人、特に法学部や哲学部の教員はパージの対象となった。共産党政権に反対するデモに参加した教員は辺境の地での強制労働を強いられた。さらに、共産党員学生が結成したスクリーニングが、教員、「正しくない階層」(中産階級)の学生を告発し、多くの人々を強制労働へと送り出した。

1950年制定の高等教育法により、大学は自治を失った。大学教員は大学評議会においてではなく、共産党により任命されると定められた。イデオロギー的逸脱者が大学人になることは許されなかった。逆に、好ましい人物であれば、長くポストにとどまった。例えば、学長の任期は5年と定められていたが、「好ましい」人物であるチェシュカ (Češka, Zdeňka) は、1976年から1989年までの13年もの長きにわたり学長を在任した<sup>27)</sup>。

大学での教育、研究は、マルクス・レーニン主義イデオロギーに従わなければならない。そこから逸脱した場合は、辺境での強制労働が待っていた。学部組織にはソ連モデルが採用された。かつての学部組織においては、教員は独立した存在であったが、新しい学部組織は、教授、準教授、上級講師という縦のつながりからなる集団組織となった。それは、個人が多大な影響力を持たないようにお互いに監視し合い、思想上の逸脱者を告発するために機能していた<sup>28)</sup>。

1968年には、「プラハの春」と言われる民主化・自由化の動きがあるも、ソ連軍がプラハを制圧し、「正常な」社会主義路線へと戻される。正常化の時代には多くの教員が海外に亡命し、カレル大学の教育・研究活動は停滞を余儀なくされた。

しかし、大学がイデオロギー化する中で、「プラハの春」に向かう1950年代から1960年代、カレル大学は、非常に速やかに大がかりな構造改革を成し遂げる。その10数年間は、実にカレ

ル大学がチェコ人の大学としての確固たる基盤を築く時代であったと考える。

## (2) チェコ人のための大学

1950年代に入ると共産党一党支配の構図が安定し、社会及び高等教育の社会主義改革が進行する。社会主義高等教育改革のねらいは、労働者のための高等教育の実現である。それまで中産階級が享受してきた高等教育を労働者に開放することであった。その方策は、大学の実学専門性を高め、社会主義経済を支えるチェコ人の拠点となっている地方産業都市に高等教育機会を切り開くことにあった。

1950年代初頭には、地方の産業都市に実学専門性を追及した専門大学、すなわち技術大学、農業大学が次々と新設された。これらの新しい大学群により、チェコスロバキアの大学数は目覚ましく増加した。社会主義期における学生数の伸び率は、カレル大学よりもむしろ専門大学において著しいほどであった。

又、労働者階級を高等教育へと志向させるために、大学入学のための準備教育を実施したり、大学寮を整備したり、様々な学生のための社会保障制度を整えた。その代価として、マルクス・レーニン主義教育が強化され、学生と教員の思想の自由は奪われていくも、社会主義は、労働者階級への高等教育の保障という点においては、成果を取めたと言っていることができる。第一共和国時代にはカレル大学学生の出自は20%が富裕階層、50%が中産階級であったが、1960年代には、労働者階級を出自とする学生が41.3%を占めるようになった<sup>29)</sup>。

「地域に実学専門性を追求した高等教育機会を切り開く」社会主義改革は、カレル大学にも及んだ。表1に示したように、第一共和国時代の5学部は、11学部に分化した<sup>30)</sup>。専門分化と地域への拡散が顕著であったのは医学部である。1946年には、プルゼニュとフラデツ・クラロヴェーに分校を設置し、1953年には、プラハの医学部は一般医学部、小児医学部、衛生学部と専門毎に分化した3学部となった<sup>31)</sup>。又、1968年にはプルゼニュの医学部分校から薬学部が独立した。

哲学部からは、1946年に教育学部が、1953年にジャーナリズム学部の原型である啓蒙ジャーナリズム・インスティテュートが分化した。さらに、教育学部は、1948年にプルゼニュとチェスケー・ブデヨビツェに分校を設置し、1953年には、教育学部から体育・スポーツ学部の原型である体育スポーツ・インスティテュートが独立した。自然科学部からは1953年に数理学部が独立した。

プラハの中心部に学部が建設された第一共和国時代とは対照的に、社会主義期に分化的に独立した学部は、中世大学の根付いた旧市街を脱し、プラハ郊外、及びプラハを出た小都市に設置される傾向にあった。特に、医学部や数理学部は、プラハ郊外に多くの研究所やクリニックを設立した(図2参照)。また、医学部と教育学部の分校及び薬学部を設置したプルゼニュ、チェスケー・ブデヨビツェ、フラデツ・クラロヴェーは、国境に近い都市であり、それまでは高等教育機会が全くなかった地域であった。

社会主義改革は、カレル大学を都市部中産階級から解き放ち、地方労働者・農民が享受できる高等教育機関へと変容させたのである。表2は、カレル大学学生数の変化を第一共和国時代の20年間と社会主義初期の20年間とで比較したものである。学生総数、及び第一共和国時代には富裕階層が多く在籍していた医学部について比較をしたものであるが、両者において社会主義期の学生数の伸びが著しいことがわかる。学生総数を見ると、第一共和国の20年間には1.3倍になったのに対し、社会主義期の20年間では2.6倍になった。医学部学生数は、第一共和国

表1 各時代の大学組織

|    | 1348-                    | 1418- | 1654-                    | 1882-  | 1918-   | 1939-             | 1945-1989   |
|----|--------------------------|-------|--------------------------|--|---|-------------------|---|
| 名称 | ブラハ大学                    |       | カルロ・フェルディナンド大学           |  | チェコ大学<br>ドイツ大学                                  | ドイツ大学             | カレル大学   |
| 学部 | 神学部<br>法学部<br>哲学部<br>医学部 | 哲学部   | 神学部<br>法学部<br>哲学部<br>医学部 | それ<br>ぞれ<br>に<br>チ<br>ェ<br>コ<br>大<br>学<br>と<br>ド<br>イ<br>ツ<br>大<br>学 | 神学部 <sup>1)</sup><br>法学部<br>哲学部<br>医学部<br>自然科学部 | 神学部<br>法学部<br>哲学部 | (神学部：大学外) <sup>2)</sup><br>法学部<br>哲学部<br>→ジャーナリズム学部 <sup>3)</sup> (1953)<br>→教育学部 (1946)<br>→体育・スポーツ学部 <sup>4)</sup> (1953)<br>→ブルゼニュー教育学部 (1948)<br>→チェスケー・ブデヨビツェ教育学部 (1948)<br>医学部 → 一般医学部 (1953)<br>自然科学部 → 小児医学部 (1953)<br>→ 衛生学部 (1953)<br>→ 医学部分校 (ブルゼニュー) (1946)<br>→ 医学部分校 (フラデツ・クラークヴェー) (1946)<br>→ 薬学部 (1968)<br>自然科学部 → 数理学部 (1953) |
| 学生 | 各国                       | チェコ人  | ドイツ人<br>チェコ人             |  | チェコ人<br>ドイツ人                                    | ドイツ人              | チェコ人  |
| 言語 | ラテン語                     |       | ドイツ語<br>チェコ語             | チェコ語<br>ドイツ語   | ドイツ語  | チェコ語              |   |

- 注1) 神学部からは、1919年にチェコスロバキア・フス派神学部が独立するが、大学外の独立学部としてクレメンティスムに存続する。また、その一派が1935年に分離するが、同様に大学外の組織として残る。現在の3つの神学部の基礎は、そこに遡ることができる。
- 注2) 社会主義は神学を認めなかった。神学部は、リトミェジツェという辺境の地に追放となった。もともと大学外の組織として存続していた二つの神学部は、コメンスキー福音神学部、チェコスロバキア・フス派神学部という名称で、やはり大学外組織として存在していた。
- 注3) 1953年に啓蒙ジャーナリズム・インスチテュート、1965年から同名の学部に、1968年に社会科学ジャーナリズム学部に、1972年にジャーナリズム学部になった。
- 注4) 1953年に体育スポーツ・インスチテュート、1965年から体育・スポーツ学部になった。
- 注5) 1945-1989年カレル大学学部の名称は全学部名が安定した1972年のものである。

では1.4倍になっているのに対し、社会主義期には1.8倍になっている。又、医学部分校における学生数の伸びからは、これらの分校が地域学生の高等教育機会向上に貢献していることを読み取ることができる。

「チェコ人のためのカレル大学」という視点から社会主義を分析すると、その意義は次のとおりである。第一に、ハプスブルク帝国から第一共和国時代にかけて、カレル大学はドイツ人とチェコ人を対象としてドイツ語とチェコ語の二言語を併用していたが、社会主義期において



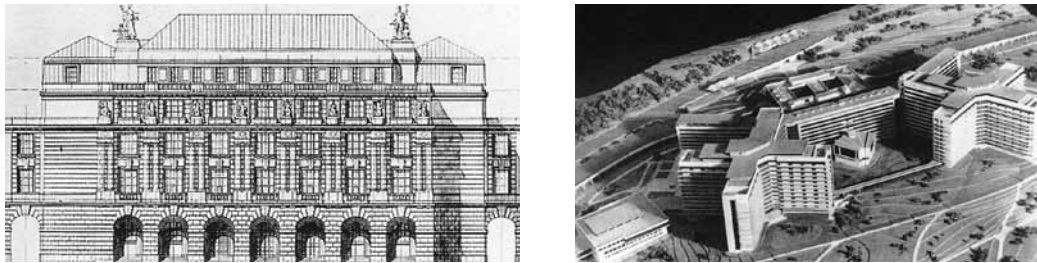


図2 第一共和国時代設立の哲学部設計図(左)と社会主義期設立の小児医学部模型(右)  
 出典) Štemberková, Marie, *Universitas Carolina Pragensis, Karolinum, Praha*, (1995), s.67. (左) 及び  
 Petráň, Josef (red.), *Památky Univerzity Karlovy, Karolinum, (1999), Praha*, s.101. (右)

表2 第一共和国時代と社会主義期のカレル大学学生数の変化比較

| 第一共和国   | 社会主義期   | 学生総数   |        | 医学部学生数 |                     |                    |
|---------|---------|--------|--------|--------|---------------------|--------------------|
|         |         | 第一共和国  | 社会主義期  | 第一共和国  | 社会主義期 <sup>1)</sup> | うち分校 <sup>2)</sup> |
| 1918/19 | 1956/57 | 5,852  | 8,316  | 1,960  | 3,657               | 680                |
| 1919/20 | 1957/58 | 7,308  | 8,106  | 2,325  | 3,443               | 732                |
| 1920/21 | 1958/59 | 8,951  | 7,992  | 2,933  | 3,508               | 784                |
| 1921/22 | 1959/60 | 8,814  | 9,094  | 2,853  | 4,056               | 1,291              |
| 1922/23 | 1960/61 | 8,150  | 10,584 | 2,561  | 4,364               | 1,433              |
| 1923/24 | 1961/62 | 8,160  | 11,907 | 2,316  | 4,675               | 1,617              |
| 1924/25 | 1962/63 | 8,195  | 13,078 | 2,232  | 4,958               | 1,705              |
| 1925/26 | 1963/64 | 8,176  | 14,396 | 2,102  | 5,144               | 1,820              |
| 1926/27 | 1964/65 | 8,237  | 18,092 | 1,843  | 5,415               | 1,843              |
| 1927/28 | 1965/66 | 8,254  | 18,674 | 1,869  | 5,518               | 1,868              |
| 1928/29 | 1966/67 | 9,213  | 18,801 | 2,035  | 5,421               | 1,868              |
| 1929/30 | 1967/68 | 9,934  | 18,512 | 2,342  | 5,521               | 1,800              |
| 1930/31 | 1968/69 | 10,435 | 19,516 | 2,550  | 5,521               | 1,792              |
| 1931/32 | 1969/70 | 11,006 | 19,619 | 2,780  | 5,373               | 1,745              |
| 1932/33 | 1970/71 | 10,681 | 18,929 | 2,641  | 5,657               | 1,811              |
| 1933/34 | 1971/72 | 10,573 | 18,355 | 2,836  | 5,785               | 1,900              |
| 1934/35 | 1972/73 | 10,614 | 17,658 | 3,109  | 5,355               | 2,000              |
| 1935/36 | 1973/74 | 10,006 | 18,559 | 3,160  | 6,225               | 2,094              |
| 1936/37 | 1974/75 | 9,300  | 19,754 | 3,117  | 6,557               | 2,177              |
| 1937/38 | 1975/76 | 9,067  | 20,339 | 3,039  | 6,877               | 2,248              |
| 1938/39 | 1976/77 | 7,847  | 21,338 | 2,736  | 6,845               | 2,310              |
| 1939/40 | 1977/78 | 7,764  | 21,780 | 2,760  | 6,856               | 2,412              |

出典) Havránek, Jan, *Dějiny Univerzity Karlovy 1918-1990*, Karolinum, (1998), Praha, s.597, ss.620-621より作成。

注1) すべての医学部、すなわち一般医学部、小児医学部、衛生学部、医学部分校(ブルゼニェ、フラデツ・クラロヴェー)の学生数。

注2) 二つの医学部分校の学生数。

初めてチェコ語のみを教授言語とし、チェコ人を対象とする大学となったことである(表1参照)。第二に、社会主義改革を通して、チェコ各地に拠点を広げ、チェコ文化の担い手である地方労働者、農民に高等教育を提供する大学へと変容したことである。この2点をしてカレル

大学が真にチェコ人のための大学となったと考えられるのである。

**おわりに 一現カレル大学の姿からの社会主義再考一**

1989年の市民革命は共産党を一掃した。革命は、ただちに民主主義、資本主義を目指す改革へと転じる。チェコスロバキアの大学は、共産党員であるという理由で教職に就いていた人材、イデオロギー統制を担ってきたマルクス・レーニン主義学科を廃した。大学外組織として追放されていた神学部を大学学部として承認し、正常化以降亡命していた教員を呼び戻した。全大学人が望むのは、正常化以降失われていた大学の自治、学問の自由を実現することであった。大学の自治と学問の自由は、大学の生命である。その共通認識は、革命後20年以上を経た今も変わらない。欧州高等教育圏構想の中で、多様な学生の需要に応えることが大学に求められ、国際社会のプレッシャーを受けつつも、大学は、決して揺らぐことがない。自治と自由があってこそ大学が存在するという理念をチェコ社会が守っているからである。社会主義への反動としての自治と自由であるのはもちろんのこと、社会主義以前の長く虐げられた大学の歴史の上に開花した自治と自由であった。革命後数か月で書き上げられた1990年高等教育法は、大学の自治と学問の自由を最高の価値として謳歌した<sup>32)</sup>。「大学の学術共同体の成員は、科学研究とその結果を公表する自由、芸術創造活動の自由、授業をする自由、学術自治組織を選ぶ権利、様々な思想をもつ権利・・・を保障される。」と、大学の自由が指し示すものが具体的に挙げられている。さらに、大学の自治と学問の自由を保障するための自治組織として、大学評議会と科学委員会が設置され<sup>33)</sup>、大学の予算から教育にいたるまで、教員を成員とする自治組織によって審議される完全なる自治の形態が実現したのである。

このように社会主義の「罪」であるイデオロギー性は一掃されたが、社会主義の要素全てが排除されたわけではない。社会主義期に設置された学部は、そのまま新時代における大学の学部として残されることになった(表3参照)。医学部とジャーナリズム学部の名称が、学部の新目標に即したものと改名する等の変化はあるものの、社会主義期に設立されたそれぞれの学部は、今や新時代のカレル大学を担う主要素となっている。市民革命後の新設学部は、人文科学部(2000年)のみであ

表3 社会主義から市民革命後にかけてのカレル大学学部の変化

|    | 社会主義期 (1945-1989)          | 市民革命後 (1990年-)              |
|----|----------------------------|-----------------------------|
|    | (神学部：大学外)                  | カトリック神学部<br>福音神学部<br>フス派神学部 |
|    | 法学部                        | 法学部                         |
|    | 哲学部                        | 哲学部                         |
|    | →ジャーナリズム学部 (1953)          | 社会科学部                       |
|    | →教育学部 (1946)               | 教育学部                        |
|    | →体育・スポーツ学部 (1953)          | 体育・スポーツ学部                   |
|    | →ブルゼニュー教育学部 (1948)         | (→西ボヘミア大学として独立)             |
|    | →チェスケー・ブデヨビツェ教育学部 (1948)   | (→南ボヘミア大学として独立)             |
| 学部 | →一般医学部 (1953)              | 第一医学部                       |
|    | →小児医学部 (1953)              | 第二医学部                       |
|    | →衛生学部 (1953)               | 第三医学部                       |
|    | →医学部分校(ブルゼニュー) (1946)      | ブルゼニュー医学部                   |
|    | →医学部分校(フラデツ・クラロヴェー) (1946) | フラデツ・クラロヴェー医学部              |
|    | →薬学部 (1968)                | 薬学部                         |
|    | 自然科学部                      | 自然科学部                       |
|    | →数理学部 (1953)               | 数理学部                        |
|    |                            | 人文科学部 (2000)                |

り、社会主義期の発展がいかにカレル大学のあるべき姿にとって不可欠であったのかがわかる。もちろん、学部内の学科やインスティテュートは常に拡大し、カレル大学は今なおチェコ全土に脈絡を広げて発展している。しかし、現在のようにチェコという国土に根付いたカレル大学があるのは、社会主義期に築きあげられた基礎があつてこそなのである。カレル大学の歴史をチェコ人の、そしてチェコの大学という視点から再考すると、社会主義高等教育改革には一つの評価が与えられると考えるのである。

\* 本研究は、科学研究費補助金（基盤研究C、平成23年度－25年度）を得て行った調査成果の一つである。

- 1) カレル大学の学生数は、49,130人、マサリク大学の学生数は34,824人（2005／2006年度）である。マサリク大学の2倍の学部数があるカレル大学ではあるが、学生数は、それほどでもないことより、カレル大学への狭き門をうかがうことができる。（Šebková, Helena, *Tertiary education in the Czech Republic*, Centre for higher education studies, (2006), Prague, p.123.)
- 2) ウィーン大学（オーストリア）は1365年、クラクフ大学（ポーランド）は1364年である。
- 3) 横尾壮英『中世大学都市への旅』、朝日出版社、(1992)、217頁。
- 4) 社会主義期には博士（doktor）が中産階級の文化であるとして廃止され、科学候補生（kandidát věd）が導入された。
- 5) Havránek, Jan (řed.), *Dějiny Univerzity Karlovy I – IV*, Karolinum, Praha, (1995–1998). 及びŠtemberková, Marie, *Universitas Carolina Pragensis*, Karolinum, Praha, (1995)である。
- 6) カレルが、バリ大学の講義に参加したかどうかは定かではないが、何らかの形で大学生生活に親しんでいたであろうと言われている。ブラハ大学は、学生が意思決定に参加するポローニャ大学型ではなく、教員が大学を管理するパリ大学型であり、ブラハ大学はパリ大学神学部がモデルとなっていると考えられるからである。
- 7) Štemberková, Marie, *Universitas Carolina Pragensis*, Karolinum, Praha, (1995), s.6.
- 8) 現在は、カリキュラムには大学本部と学長室がおかれている。
- 9) チェコ組には、ボヘミア、モラヴィア、ハンガリーの学生が、ポーランド組には、ポーランド、シレジアの学生、サクソン組には、ドイツ、イギリス、スカンジナビア半島の学生、バイエルン組には、ライン以南のドイツとオーストリアの学生が所属した。
- 10) Štemberková, Marie, *op.cit.*, ss.13-14.
- 11) ボヘミア出身のフスは、ブラハ大学で修士をとり、哲学部長を経て学長となった。宗教改革論者であり、免罪符によって人々を救済しようとする聖職者を批判した。1412年には、彼の論文が異端とされて大学を追われ、コンスタンツ公会議（1414年）の後幽閉され、1415年に処刑された。
- 12) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.15.
- 13) 石倉瑞恵「19世紀チェコにおける女子高等教育の成立と女性医師の誕生 エリシュカ・クラスノホルスカの思想と活動を中心に」、名古屋女子大学『総合科学研究』第6号、(2012)、5頁。
- 14) 第一共和国以降、大学図書館として機能する。現在では、複数の大学の図書館と国立図書館の機能を備えている。
- 15) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.32.
- 16) ボヘミアとモラヴィアの統一、チェコ人による自治を要求に掲げて、学生、労働者、農民が立ち上がった。
- 17) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.50.
- 18) チェコ大学では設備が乏しいため、活動が停滞していた。しかし、チェコ大学の発足により、哲学部ではチェコ文学やチェコ言語学、スラブ研究が開花した。
- 19) チェコ大学とドイツ大学の学生数は、1883／84年でそれぞれ1,481人、1,368人であったが、1913／14年には4,740人、2,295人となった。（Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.52.）
- 20) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.57.
- 21) 又、彼の関心はハプスブルク帝国内に実現しなかった新大学の設立に向かった。1919年には、チェコスロ

- バキアにおける2つ目の大学として自身の名を冠したマサリク大学をブルノに、モラビアの偉大な教育学者の名を用いたコメニウス大学をプラチスラバに設立した。この二つの大学には、チェコ大学から若い教員を派遣した。
- 22) チェコスロバキアの軍隊の4分の1はドイツ人が占めていた。ハンガリーやポーランドがナチス・ドイツと手を結び、いつチェコスロバキアを攻めてくるともわからなかった。当時のソ連軍は、まだ戦備態勢に入っておらず、チェコスロバキアを援護するための路線も定まっていなかった。又、ソ連がヨーロッパでの戦争に介入した際の世界の反響についても不安があった。以上により、ベネシュはドイツと手を結ぶことを決意した。
  - 23) 大学閉鎖後、イギリスに亡命した学生も少なくはなかった。彼らの受け入れ先は主にオクスフォード大学であった。大学閉鎖の間に学業を修了した学生に対しては、オクスフォード大学がチェコ大学の学位を与えた。
  - 24) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.85.
  - 25) *Ibid.*, s.92.
  - 26) *Ibid.*, s.96.
  - 27) Havránek, Jan (řed.), *Dějiny Univerzity Karlovy IV*, Karolinum, Praha, (1998), s.330.
  - 28) Štemberková, Marie, *op.cit.*, s.103.
  - 29) 石倉瑞恵「旧チェコスロバキアにおける大学寮の機能に関する考察 —救済と統制のメカニズム—」名古屋女子大学『名古屋女子大学紀要』第54号、(2009)、3頁。
  - 30) 一度分離して、再び統合した学部もある。哲学部は、1956年に史哲学部と言語学部に分離するも、1960年には元の哲学部になった。自然科学部は、1956年に生物学部と地理学・地質学部、及び物理学部に分離するが、わずか2年後の1958年には元の自然科学部に統合された。
  - 31) 市民革命後は、医師には総合的能力が必要となるので専門毎に分化した学部は望ましくないとされ、第一、第二、第三医学部という名称で、ほぼ同じ研究・教育機能をもつ3つの医学部となった。
  - 32) チェコでは、一度施行された法律は、新しい法律施行の後も有効となる。1998年高等教育法が施行された今でも1990年高等教育法は有効なのである。
  - 33) 大学評議会は、予算、長期計画、定期報告、内規規定等を審議する自治組織であり、科学委員会は、教授指名、教育課程、研究計画等を審議する自治組織である。教育・青年・スポーツ省は、高等教育政策を打ち立て、公立大学に助成を与えたりするが、大学自治組織との関係は「話し合い」にあり、教育・青年・スポーツ省も大学の自治と自由を超えて介入することはない。

## Abstract

This paper clarifies the role of socialism in the process of Charles University developing into the University for the Czech people. The prosperity of Charles University, which was established as Prague University in the 14th century, did not last so long. In the 15th century, after Hus's death, Prague University survived only as a local educational institution called Prague Academy.

In the 16th century, Prague Academy regained its life as a University. Under the Habsburg monarchy, it regenerated as Carlo-Ferdinand University. However, it was defined as Austria's University, and German was used for teaching. When the Czech revival movement was raised, Carlo-Ferdinand University was divided into German University and Czech University, which was only an attached institution.

In 1917, independent Czechoslovakia, the first republic came into existence though the German University and Czech University were left together. Czech University became subject and developed around the traditional faculties, but was broken down again by the

Nazi occupation.

In the socialism era after 1948, Charles University was built and magnified, though it was ideologically controlled. Many new faculties were established in the suburbs of Prague and the local cities which had not had any higher education basis. The lower classes, labors and farmers, who had carried Czech culture, were given the opportunities for higher education. The number of students increased to be more than in the first republic. The socialist reform changed Charles University into the true Czech people's university and it formed original of today's Charles University.

